

デーヴォ ガイド



2021.6.14-20

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

- ①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)
- ②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)
- ③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)
- ④この世にあって何を実践しますか?

25:23 机をアカシヤ材で作らなければならない。長さは二キュビト、幅は一キュビト、高は一キュビト半。

25:24 これを純金でかぶせ、その回りに金の飾り縁を作り、

25:25 その回りに手幅のわくを作り、そのわくの回りに金の飾り縁を作る。

25:26 その机のために金の環を四個作り、その四隅の四本の足のところにその環を取りつける。

25:27 環はわくのわきにつけ、机をかつぐ棒を入れる所としなければならない。

25:28 棒をアカシヤ材で作し、これに金をかぶせ、それをもって机をかつぐ。

25:29 注ぎのささげ物を注ぐための皿やひしゃく、びんや水差しを作る。これらは純金で作らなければならない。

25:30 机の上には供えのパンを置き、絶えずわたしの前にあるようにする。

25:31 また、純金の燭台を作る。その燭台は槌で打って作らなければならない。それには、台座と支柱と、がくと節と花卉がなければならない。

25:32 六つの枝をそのわきから、すなわち燭台の三つの枝を一方のわきから、燭台の他の三つの枝を他のわきから出す。

25:33 一方の枝に、アーモンドの花の形をした節と花卉のある三つのがくを、また、他方の枝にも、アーモンドの花の形をした節と花卉のある三つのがくをつける。燭台から出る六つの枝をみな、そのようにする。

25:34 燭台の支柱には、アーモンドの花の形をした節と花卉のある四つのがくをつける。

25:35 それから出る一對の枝の下に一つの節、それから出る次の一對の枝の下に一つの節、それから出るその次の一對の枝の下に一つの節。このように六つの枝が燭台から出ていることになる。

25:36 それらの節と枝とは燭台と一体にし、その全体は一つの純金を打って作らなければならない。

25:37 それにともしび皿を七つ作る。ともしび皿を上げて、その前方を照らすようにする。

25:38 その心切りばさみも心取り皿も純金である。

25:39 純金一タラントで燭台とこれらのすべての用具を作らなければならない。

25:40 よく注意して、あなたが山で示される型どおりに作れ。

供えのパンと机、また燭台とその付属品についての神様からの指示です。パンはいのちのパンであるイエス様を表しますし、また燭台も世の光であるイエス様を表します。

アカシヤ材は普通に手に入るもので、これはイエス様の人性を表しています。また純金は特別高価なものですから、イエス様の神性を表します。また7つ枝がある燭台は、神の7つの霊、すなわち完全数による神の完全を表すものです。

イエス様は場所に限定されないお方ですが、このように人間側に周到に用意するなら、そこに臨在を表してくださるお方なのです。これらのものが進んで下さる者たちによって造られたことを思い、私たちも、進んで主の臨在を求めて用意しましょう。日常生活の中でもイエス様がご自身を表してくださるよう、そのために備えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶15日 火曜

出エジプト

26:1 幕屋を十枚の幕で造らなければならぬ。すなわち、撚り糸で織った亜麻布、青色、紫色、緋色の撚り糸で作り、巧みな細工でそれにケルビムを織り出さなければならない。

26:2 幕の長さは、おのおの二十八キュビト、幕の幅は、おのおの四キュビト、幕はみな同じ寸法とする。

26:3 その五枚の幕を互いにつなぎ合わせ、また他の五枚の幕も互いにつなぎ合わせなければならない。

26:4 そのつなぎ合わせたものの端にある幕の縁に青いひもの輪をつける。他のつなぎ合わせたものの端にある幕の縁にも、そのようにしなければならない。

26:5 その一枚の幕に輪五十個をつけ、他のつなぎ合わせた幕の端にも輪五十個をつけ、その輪を互いに向かい合わせにしなければならない。

26:6 金の留め金五十個を作り、その留め金で幕を互いにつなぎ合わせて一つの幕屋にする。

26:7 また、幕屋の上に掛ける天幕のために、やぎの毛の幕を作る。その幕を十一枚作らなければならない。

26:8 その一枚の幕の長さは三十キュビト。その一枚の幕の幅は四キュビト。その十一枚の幕は同じ寸法とする。

26:9 その五枚の幕を一つにつなぎ合わせ、また、ほかの六枚の幕を一つにつなぎ合わせ、その六枚目の幕を天幕の前で折り重ねる。

26:10 そのつなぎ合わせたものの端にある幕の縁に輪五十個をつけ、他のつなぎ合わせた幕の縁にも輪五十個をつける。

26:11 青銅の留め金五十個を作り、その留め



金を輪にはめ、天幕をつなぎ合わせて一つとする。

26:12 天幕の幕の残って垂れる部分、すなわち、その残りの半幕は幕屋のうしろに垂らさなければならない。

26:13 そして、天幕の幕の長さで余る部分、すなわち、一方の一キュビトと他の一キュビトは幕屋をおおうように、その天幕の両側、こちら側とあちら側に、垂らしておかなければならない。

26:14 天幕のために赤くなめした雄羊の皮のおおいと、その上に掛けるじゅごんの皮のおおいを作る。

幕屋は様々な色糸と巧みなわざで美しい幕でできていました。その上に天幕がかかり、それはやぎの毛でできていました。さらにその上、すなわち一番外側はじゅごんの皮でできたおおいがかけられてあり、それは見栄えのしないものでした。

まさにそれはイエス様を想起させるもので、人間的に外側を見るなら非力で貧しい人ではありませんでしたが、その本質は栄光に満ちたお方であるということです。それは人の間に住まわれるために、ご自身の栄光をお捨てになったことによるのです。

今もイエス様は私たちのような罪人を友とよんでくださる、謙遜に満ちたお方です。その栄光に満ちたご本質を忘れることなく、一方、そこまでして私たちを招いてくださるイエス様に近づいてゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶16日 水曜

出エジプト

26:15 幕屋のために、アカシヤ材で、まっすぐに立てる板を作る。

26:16 板一枚の長さは十キュビト、板一枚の幅は一キュビト半。

26:17 板一枚ごとに、はめ込みのほぞ二つを作る。幕屋の板全部にこのようにしなければならぬ。

26:18 幕屋のために板を作る。南側に板二十枚。

26:19 その二十枚の板の下に銀の台座四十個を作らなければならない。一枚の板の下に、二つのほぞに二個の台座を、他の板の下にも、二つのほぞに二個の台座を作る。

26:20 幕屋の他の側、すなわち北側に、板二十枚。

26:21 銀の台座四十個。すなわち一枚の板の下に二個の台座。他の板の下にも二個の台座。

26:22 幕屋のうしろ、すなわち、西側に、板六枚を作らなければならない。

26:23 幕屋のうしろの両隅のために板二枚を作らなければならない。

26:24 底部では重なり合い、上部では、一つの環で一つに合うようになる。二枚とも、そのようにしなければならない。これらが両隅となる。

26:25 板は八枚、その銀の台座は十六個、すなわち一枚の板の下に二個の台座、他の板の下にも二個の台座となる。

26:26 アカシヤ材で横木を作る。すなわち、幕屋の一方の側の板のために五本、

26:27 幕屋の他の側の板のために横木五本、幕屋のうしろ、すなわち西側の板のために横木五本を作る。



26:28 板の中間にある中央横木は、端から端まで通るようにする。

26:29 板には金をかぶせ、横木を通す環を金で作らなければならない。横木には金をかぶせる。

26:30 あなたは山で示された定めのおりに、幕屋を建てなければならない。

26:31 青色、紫色、緋色の撚り糸、撚り糸で織った亜麻布で垂れ幕を作る。これに巧みな細工でケルビムを織り出さなければならない。

26:32 これを、四つの銀の台座の上に据えられ、その鉤が金でできている、金をかぶせたアカシヤ材の四本の柱につける。

26:33 その垂れ幕を留め金の下に掛け、その垂れ幕の内側に、あかしの箱を運び入れる。その垂れ幕は、あなたがたのために聖所と至聖所との仕切りとなる。

26:34 至聖所にあるあかしの箱の上に『贖いのふた』を置く。

26:35 机を垂れ幕の外側に置き、その机は幕屋の南側にある燭台と向かい合わせる。あなたはその机を北側に置かなければならぬ。

26:36 天幕の入口のために、青色、紫色、緋色の撚り糸、撚り糸で織った亜麻布で刺繍をした幕を作る。

26:37 その幕のためにアカシヤ材の柱五本を作り、これに金をかぶせる。その鉤も金で、また、それらの柱のために青銅の台座五つを鑄造する。

幕屋は神様の臨在を表します。その神様を中心として、この世から一線を画しているのが、板の存在です。これはまさに教会が神様を中心として、

滅び行くこの世から召しだされて一線を画す教会を想起させます。板がほぞによって堅く組みあわされて、何よりも土台が尊い銀であるように、教会も組み合わされており、土台はイエス様と言う尊いお方です。

31節からは至聖所という神様の聖なることを表すところについて書かれています。私たちも教会も、またその交わりも、聖なる神様を中心として、イエス様を土台として、堅く結び合わされてゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶17日 木曜

出エジプト



27:1 祭壇をアカシヤ材で作る。その祭壇は長さ五キュビト、幅五キュビトの四角形でなければならない。高さは三キュビトとする。
27:2 その四隅の上に角を作る。その角は祭壇の一部でなければならない。青銅をその祭壇にかぶせる。

27:3 灰を取るつぼ、十能、鉢、肉刺し、火皿を作る。祭壇の用具はみな、青銅で作らなければならない。

27:4 祭壇のために、青銅の網細工の格子を作り、その網の上の四隅に、青銅の環を四個作る。

27:5 その網を下方、祭壇の出張りの下に取りつけ、これを祭壇の高さの半ばに達するようにする。

27:6 祭壇のために、棒を、アカシヤ材の棒を作り、それらに青銅をかぶせる。

27:7 それらの棒は環に通されなければならない。祭壇がかつがれるとき、棒は祭壇の両側にある。

27:8 祭壇は中をからにして板で作らなければならない。山であなたに示されたところにしたがって、彼らはこれを作らなければならない。

27:9 幕屋の庭を造る。南側に面して、庭の掛け幕を、その側のための長さ百キュビトの撚り糸で織った亜麻布を、張る。

27:10 柱は二十本、その二十個の台座は青銅で、柱の鉤と帯輪は銀とする。

27:11 同じように、北に面して、その長さで、長さ百キュビトの掛け幕とする。柱は二十本、その二十個の台座は青銅で、柱の鉤と帯輪は銀とする。

27:12 また、西に面して庭の幅には五十キュビトの掛け幕、その柱十本、その台座十個とする。

27:13 前面の東に面する庭の幅も五十キュビト。
27:14 片側に寄せて、十五キュビトの掛け幕と、その三本の柱、その三個の台座とする。

27:15 他の片側にも十五キュビトの掛け幕と、その三本の柱、その三個の台座とする。

27:16 庭の門には、青色、紫色、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布を使った長さ二十キュビトの刺繍した幕と、その四本の柱、その四個の台座とする。

27:17 庭の周囲の柱はみな、銀の帯輪を巻きつけ、その鉤は銀、台座は青銅とする。

27:18 この庭は、長さ百キュビト、幅は五十キュビトに五十キュビト、高さ五キュビト、幕は撚り糸で織った亜麻布、その台座は青銅とする。

27:19 幕屋の奉仕に用いるすべての用具、すべての釘、庭のすべての釘は青銅とする。

27:20 あなたはイスラエル人に命じて、燈火用に上質の純粋なオリーブ油を持って来させ、ともしびを絶えずともしておかなければならない。

27:21 アロンとその子らは、あかしの箱の前の垂れ幕の外側にある会見の天幕で夕方から朝まで、主の前にそのともしびをととのえなければならない。これはイスラエル人が代々守るべき永遠のおきてである。

青銅や幕などまた庭などは、神様と出会う場所のきよさを表します。この世は神様が創造されたにも関わらず、罪によって墮落してしまい、また私たちの心も罪に汚れているからです。ともし火

を消さないように、聖霊と常に交わりながら、主とのきよい交わりを持ちましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶18日 金曜

出エジプト



28:1 あなたは、イスラエル人の中から、あなたの兄弟アロンとその子、すなわち、アロンとその子のナダブとアビフ、エルアザルとイタマルを、あなたのそばに近づけ、祭司としてわたしに仕えさせよ。

28:2 また、あなたの兄弟アロンのために、栄光と美を表わす聖なる装束を作れ。

28:3 あなたは、わたしが知恵の霊を満たした、心に知恵のある者たちに告げて、彼らにアロンの装束を作らせなければならない。彼を聖別し、わたしのために祭司の務めをさせるためである。

28:4 彼らが作らなければならない装束は次のとおりである。胸当て、エポデ、青服、市松模様の長服、かぶり物、飾り帯。彼らは、あなたの兄弟アロンとその子らに、わたしのために祭司の務めをさせるため、この聖なる装束を作らなければならない。

28:5 それで彼らは、金色や、青色、紫色、緋色の撚り糸、それに亜麻布を受け取らなければならない。

28:6 彼らに金色や、青色、紫色、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布を用い、巧みなわざでエポデを作らせる。

28:7 これにつける二つの肩当てがあつて、その両端に、それぞれつけられなければならない。

28:8 エポデの上に結ぶあや織りの帯は、エポデと同じように、同じ材料、すなわち金色や、青色、紫色、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布で作る。

28:9 二つのしまめのうを取ったなら、その上にイスラエルの子らの名を刻む。

28:10 その六つの名を一つの石に、残りの六つの名をもう一つの石に、生まれた順に刻む。

28:11 印を彫る宝石細工師の細工で、イスラエルの子らの名を、その二つの石に彫り、それぞれを金のわくにはめ込まなければならない。

28:12 その二つの石をイスラエルの子らの記念の石としてエポデの肩当てにつける。アロンは主の前で、彼らの名を両肩に負い、記念とする。

28:13 あなたは金のわくを作り、

28:14 また、二つの純金の鎖を作り、これを編んで、撚ったひもとし、この撚った鎖を、先のわくに、取りつけなければならない。

幕屋に関する指示が終わり、次にはそこで奉仕をする人についての指示です。神様の働きをするには、設備や建物も重要ですが、人のあり方を忘れてはなりません。教会も同じで、人が整えられて成長せられてこそ、主の働きが進むのです。

大祭司はイエス様の型です。彼らが12部族の名前を刻んで忘れず、とりなしたように、イエス様の私たちの名を、手のひらに刻むようにしてとりなしてください。

また私たちもイエス様を模範にして祭司のように奉仕し、そして伝道します。人々が見て、恵を感じられるようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶19日 土曜

出エジプト

28:15 あなたはさばきの胸当てを、巧みな細工で作る。それをエポデの細工と同じように作らなければならない。すなわち、金色や、青色、紫色、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布で作らなければならない。

28:16 それは、四角形で、二重にし、長さは一あたり、幅は一あたりとしなければならない。

28:17 その中に、宝石をはめ込み、宝石を四列にする。すなわち、第一列は赤めのう、トパーズ、エメラルド。

28:18 第二列はトルコ玉、サファイヤ、ダイヤモンド。

28:19 第三列はヒヤシンス石、めのう、紫水晶、

28:20 第四列は緑柱石、しまめのう、碧玉。これらを金のわくにはめ込まなければならない。

28:21 この宝石はイスラエルの子らの名によるもので、彼らの名にしたがい十二個でなければならない。十二部族のために、その印の彫り物が一つの名につき一つずつ、なければならない。

28:22 また編んで撚った純金の鎖を胸当てにつける。

28:23 胸当てに、金の環二個をつけ、その二個の環を胸当ての両端につける。

28:24 この二筋の金のひもを胸当ての両端の二個の環につける。

28:25 その二筋のひもの他の端を、先の二つのわくにつけ、エポデの肩当てに外側に向くようにつけなければならない。

28:26 ほかに二個の金の環を作り、これを胸



当ての両端、すなわち、エポデの前に来る胸当ての内側の縁につける。

28:27 ほかに二個の金の環を作り、これをエポデの二つの肩当ての下端の外側に、すなわち、エポデのあや織りの帯の上部の継ぎ目に接した面の上につける。

28:28 胸当ては、青ひもで、その環のところをエポデの環に結びつけ、エポデのあや織りの帯の上にあるようにする。胸当てがエポデからずり落ちないようにしなければならない。

28:29 アロンが聖所にはいるときには、さばきの胸当てにあるイスラエルの子らの名をその胸の上に載せ、絶えず主の前で記念としなければならない。

28:30 さばきの胸当てには、ウリムとトンミムを入れ、アロンが主の前に出るときに、それがアロンの胸の上にあるようにする。アロンは絶えず主の前に、イスラエルの子らのさばきを、その胸の上に載せる。

さばきの胸当てにはイスラエルの部族を表す宝石がはめ込まれました。イスラエルと同じく神の民である私たちもまた、神様の目には宝石のように尊いものです。

神のさばきは恐ろしいものではなく、むしろ私たちを宝石のように大切に扱ってくださるものなのです。安心して主のなされることに委ねましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



28:31 エポデの下に着る青服を、青色の撚り糸だけで作る。

28:32 その真中に頭を通す口を作る。その口の周囲には、織物の縁をつけ、よろいのえりのようにし、ほころびないようにしなければならない。

28:33 そのすそに、青色、紫色、緋色の撚り糸で、ざくろを作り、そのすその回りにこれをつけ、その回りのざくろの間に金の鈴をつける。

28:34 すなわち、青服のすその回りに金の鈴、ざくろ、金の鈴、ざくろ、となるようにする。

28:35 アロンはこれを務めを行なうために着る。彼が聖所にはいり、主の前に出るとき、またそこを去るとき、その音が聞こえるようにする。彼が死なないためである。

28:36 また、純金の札を作り、その上に印を彫るように、『主への聖なるもの』と彫り、

28:37 これを青ひもにつけ、それをかぶり物につける。それはかぶり物の前面に来るようにしなければならない。

28:38 これがアロンの額の上にあるなら、アロンは、イスラエル人の聖別する聖なる物、すなわち、彼らのすべての聖なるささげ物に関しての咎を負う。これは、それらの物が主の前に受け入れられるために、絶えずアロンの額の上になければならない。

28:39 亜麻布で市松模様の長服を作り、亜麻布でかぶり物を作る。飾り帯は刺繍して作らなければならない。

28:40 あなたはアロンの子らのために長服を作り、また彼らのために飾り帯を作り、彼らのために、栄光と美を表わすターバンを作ら

なければならない。

28:41 これらをあなたの兄弟アロン、および彼とともにいるその子らに着せ、彼らに油をそそぎ、彼らを祭司職に任命し、彼らを聖別して祭司としてわたしに仕えさせよ。

28:42 彼らのために、裸をおおう亜麻布のものもひきを作れ。腰からももにまで届くようにしなければならない。

28:43 アロンとその子らは、会見の天幕にはいるとき、あるいは聖所で務めを行なうために祭壇に近づくとき、これを着る。彼らが咎を負って、死ぬことのないためである。これは、彼と彼の後の子孫とのための永遠のおきてである。

金の鈴をつけなさいという指示です。これは音が出るためであり、それによって神の前であることを自覚するのです。この自覚がなければ、私たちは主の前に勝手なふるまいをしてしまうのです。それは「死」につながるものです。すなわち神様との断絶です。

祭司は主の前であることを自覚しなければなりません。私たちは皆が新約の祭司です。銀の鈴がなるように、私たちも心を覚まして、いつも主の前であることを自覚しましょう。そして、主の守りと御心を感じましょう。そして行動しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

